

井戸端だより

第4号

発行日 1993.11.30


発行 暮らしの学習会



愛媛県に住んで早や3年余りと言うのに、石鎚登山以外はほとんど山登りの機会に恵まれないでいました。それだけに今回の奥重信行きは心待ちにしていました。

梅雨時にもかかわらず、幸いなことに天気にも恵まれました。朝9時過ぎに「酒だる村」に到着。そこから車を降りて、普通は歩いて行くところを、時間に制約がある主婦集団では、帰り時間が気になって、勧められるままに車で行ける所まで行くことになりました。何と、それはスリル満点のこぼこ道でした。我がボンゴツのワゴン車は、定員8人を乗せてあえぎながらかろうじて登っていきました。行き止まりの道に車を置き、いよいよ山歩きのスタート。道案内の男の人2人を先頭に、特別参加のドイツ人2人を加え、総勢12人のパーティーとなりました。

道案内がいなければ、方向音痴の私は多分迷ってしまったらという道でした。すぐ脇を流れる重信川の源流の水が山奥に行くほどに、どんどん澄んでいくように思われました。どれ位歩いたでしょうか。石組みの残っている所がありました。人家の跡です。昭和30年過ぎまで人が住んでいたとのこと。四角の石組みは風呂の跡だということでした。近くに廃校跡がありました。今日の道案内の一人は、昔この学校の先生をされていた方でした。以前は150人ほどの子供たちがここに通っていたと聞いて驚きました。重信町だけでなく、丹原町からも通っていたとか。家庭訪問の時などは、けもの道を通って歩いて行かれたとか、うかがいました。校舎の面影もなく竹林になっている今の状況からは、当時の様子を想像するのはなかなか難しいと思いました。昔、この辺りは林業が盛んで、水車で電力をおこし、丸太を機械で搬出していたとか。活気のある林業のおかげで、人は集まり、潤っていたらしい。水車の跡や装置の痕跡を見て、やっと当時の様子がおぼろげながら浮かんできました。



浅くても流れの速い川を、急ごしらえの丸太2本をくくった橋でバランスをとりながら渡るのは、実にスリルがありました。名も知らない植物の数々に自然の恵みを感じました。そして行き着いた所は、面河の水も何のその、阿歌古溪谷から流れる本当にきれいな川の流れのほとりで、素敵な所でした。ここで昼食。持参した材料でのバーベキュー。焼きたての新鮮なにじますのおいしかったこと。美しい水と眺めにおいしい食事、最高に贅沢でした。そして、ここで採集した水性生物は、特にきれいな川にしかいないカワゲラで、そのきれいさが正に実証されたのでした。

こんな美しい川を源流に持つ重信川の水を毎日飲んでいる私達は、実はとても幸せなのだ。この幸せをいつまでも維持したい。この美しさを妨げる何物をも許さないように監視し見守り続けようと思いました。(T)

重信川の源流を分け入って

今年の夏は雨、また雨。普段は水がほとんど見えない重信川も今年はどうと流れている。上流に行くにしたがって、水かさが増してにごった水も谷深くなるにしたがって清流となってきた。ところが、ここに至る川すじは、いたるところ堰や砂防ダムで寸断され溪流を楽しむ風情が失われている。たどりついた溪谷にもごついコンクリートむき出しの砂防ダムがいままさに建設中であつた。最近では治水一本槍でなくより生態系を保つ方向で堰や砂防ダムが見直されつつあると聞くが、重信川ではどうなっているのだろう。

さて、さらにむかし馬が通っていたという道を踏みしめて奥にわけいと、小学校もあつたという集落跡にでた。ここには製材所もあり、かつて発電もしていたという。高いところに苔むした石組み(水を引いていた跡)と下の方にこれも苔むした水車の跡が残っていた。落差は3メートルもあろうか。山の中と言うと原始的な生活をつい想像しがちだが、案外快適な生活が繰り広げられていたかも知れない。それにこんな環境で電気が作れるというのも驚きだ。もっとも、一昔前まではこういった水車も多くあり、牛を飼うところではメタンガス発電なども普及していたそうで、いろいろな方法で電気は作られていたようだ。今の私たちは電気なるものは巨大な発電所で作られ高い高い鉄塔を遠く運ばれてやっと届くもの、何か自分達の手の届かないまたコントロールできないものとして捉えているような気がする。自然の恵みを少し工夫して、その土地にあつたやり方で電気が作れる。とてつもない罪を冒すことなく自前の電気を作れるのだ。山ふところにわけいって自然の恵みがこんなところにもあつたとうれしくなった。ただ人間が謙虚に自然に聞く耳さえもっていたら答えてくれるような・・・その意味ではここは資源の宝庫だとさえいえる。

この清流にはもう下流では決して見れなくなったカワゲラがいた。人々から忘れ去られたゆえに残った自然。しかし私たちは本当に忘れ去っていいのだろうか、自然と共に暮らすことを。(M.M)

おなじみ

カゲロウさんの先生が来たヨ

津郷 勇 先生
奥村 充司先生



私たちが川の水生生物（カゲロウやヘビトンボ）を送って調べてもらっていることを、よもやお忘れではないでしょうネ。（ご存知ない方は井戸端だより1、2、3号をどうぞ読んで下さい。）

そのカゲロウたちをいつも調べて下さっている福井高専の先生方が、4WDで颯爽と杖ノ淵に現れたのは7月25日のお昼すぎ。ていれぎ茶屋で共に昼食を頂きながら、質問に答えていただいたり先生方の現在の活動状況をお話し頂いたりしました。以下、その内容をお知らせします。

☆“健康な川”とは

- ・多種多様の生物が住んでいるほどその川が健康であると言える。
- ・川の温度にもよるが、上流の水生生物ほど固体が大きいが数は少ない。それだけ生存環境は厳しい。下流では固体は小さいが数は多い。川に栄養分が多い。（つまり、汚れている）

☆ 川健康を知るために、なぜ「虫」なのか

- ・採りやすい
- ・一生のサイクルが短い
- ・出来るだけ水の影響を多く受けるものが良い
- ・植物だと土の問題がからみ、純粹に水の問題がわかりにくい。
- ・魚では移動範囲が大き過ぎる
- ・水そのものを調べるに越したことはないが、水は運ぶ点で問題がある

☆ 昼食後、重信川（重信橋）の水質検査に出掛けました。

溶存酸素	8.46 mg/l (ppm)
塩分	0
PH	7.75
電動率	0.13 ms/cm
にごり	-2
水温	18.0°

〇 四万十川
と同じくらい
きれいな川です。
ただし調べた地点
でのハナシですが。

とても短い時間でしたが多くのことを共に語り合うことができ、くらしに川の果たす役割の大きさや、環境を守ることの難しさを改めて実感した1日でした。

(Y)

くらしの学習会
県生活センターで「水」をテーマの
パネル展示に参加！

去る8月10日から10月17日まで山越の愛媛県婦人総合センターの中の県生活センターで、「水」をテーマにパネル展示が行われることになり、私たち「くらしの学習会」も急遽これまで勉強してきたことを一枚のパネルにまとめて展示に加わった。他には松山の「水をきれいにする会」、西条の「暮らしの会」、五十崎の「町づくりシンポの会」などが加わり、それぞれの観点から展示を構成していた。

「水をきれいにする会」はこれまで10年にわたって自分たちの足を使って調べ上げた、重信川水系の水生生物や川の汚染の状況を詳しくしかもわかりやすく図示していた。「暮らしの会」では、今ある西条の豊かな水を守るには加茂川の上流をしっかりと守らなければとの思いから上流の不法採石を告発する写真が印象的であった。「町づくりシンポの会」のパネルはたった一枚の写真。小田川の河川敷に堂々と枝を張った一本の「榎」の写真であった。何事も経済や効率が優先してきたこれまでの生き方にストップをかけ、わたしたちの暮らしに何が本当に必要なのかをこの「榎」は問い掛けているようだ。先日の新聞によると、この「榎」は切られずに残されるよう護岸改修の計画が変更されたそうである。五十崎の人々と改修担当者の見識を評価したい。

さて、私たちのパネルでは重信川を中心にこれまで見てきた上流から中流域の現状と問題点をまとめたが、なにしろ準備期間が10日ほどで、あわてて調べ始めたこともたくさんあった。ともあれ、今回機会を与えられ形にしたことで、今後予定している私たちのパネル展へのバネに成ったことは事実だ。来年初夏に予定しているパネル展はより充実したものにしたい。

(み)

柳川堀割物語の広松氏講演（於北条市）

9月4日（土）私達4人は、北条市民会館で行われた「水を誇りかした町づくり」という講演を聞きにいきました。

講師は、福岡県柳川市の水路浄化運動を推進してきた 広松伝さんでした。

これは宮崎駿監督の柳川堀割物語という映画にもなって、広く世間に知られた運動です。彼が係長だった1985年頃、市内を網の目のように流れる水路（堀割）の汚染がひどく県や市から、堀割に蓋をして下水路にしようという計画がもちあがりました。

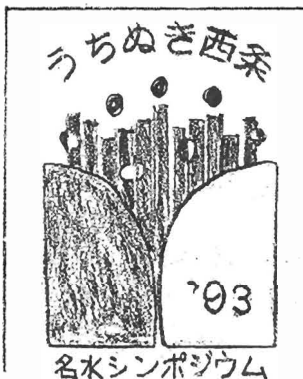
しかし、蓋をすれば、人目につかなくなり汚染は急激に進むこと、しかも大雨の時には水があふれて家屋が浸水することに気が付いた彼は、郷土に清流をとりもどそう！というスローガンをかかげて市民に訴えました。その結果、見事にゴミとヘドロに埋もれた水路は文字どおり、水の流れる川によみがえったのです。

広松さんは見たところ地味な感じの方ですが、おだやかな話ぶりのなかからも粘り強さと水に対する思いが伝わってきました。

自分は酒が好きで、飲んだ後の冷たい水が好きだ、水道の蛇口からそのまま水が飲めるという生活を守りたい。子供の頃、汗いっぱいそのまま飛び込んだ川を守りたいと話されました。

そういえば、今の大人はきれいな（安全な）水や空気のなかで育ってきたなあとちょっぴり今の子供達に申し訳ないような気がしてきました。

講演を聞きながら、重信町の川や湧水を思い出していました。いい1日でした。（K）



名水シンポジウム



全国水環境保全シンポジウムに参加して

10月20日西条見学が”全国水環境シンポ”に参加することになり、急なことだったので行ける人が少なく残念でした。西条の有重さんの案内をいただき、新町川水系・嘉母神社の手洗水を見ることができました。ここでは、思いがけず宮司さん所の台所の”うちぬき”を見せて頂くことができました。三槽に分かれた水槽に惜しげもなく水が流れ、（水道料金は勿論いらぬとのこと）ずっと昔から愛着を持ち、大切に利用されている様子うかがえました。

同市は石鎚連峰を源とする清冷で水量豊富な加茂川が市域の中央部を貫流しています。加茂川がもたらす地下水（伏流水）は市内いたるところで自噴し、これを地元では”うちぬき”と呼び、生活用水はもとより農業、工業用水として市民生活に欠かせないものとなっているとのこと。

午後からの「水辺の美しさを考える」と題した篠原氏の講演では、— 水辺の環境を考えると重要なことは、水辺のまわりをどのように考えるかが大切。そうでないと生きてこない。水だけでなく建物・木・町並みこれらを総合的に考えること。3年、5年したらどうなるか、それらの子孫に遺産として残していくことが……。

外国の例をスライドで見せながら、元々の自然の素質は日本の方がよいが、素質を生かす努力が足りない。総合的でない。それでは、”どこで総合的に考えるか”というところがない。役所の縦割行政のシステムが悪いとの指摘をされていた。

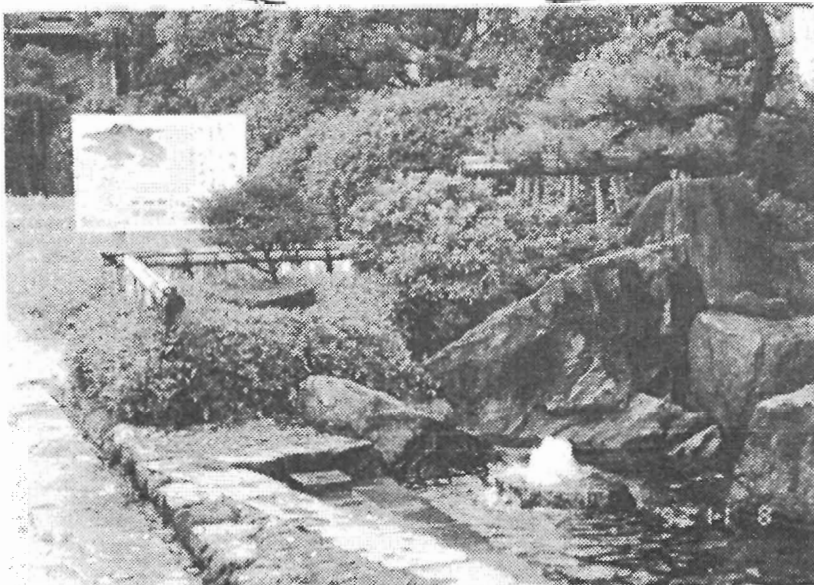
同じようなことを先日武井さんの紹介で読んだ「下水道」の本でも — 人間は毎日”水を飲み”、水を媒介にして”汚物を捨て”そのために水道と下水道がある。ところが、これまでこの二つは役所の縦割行政を反映してバラバラに計画され、それぞれが河川を破壊してきた。いま求められるのはこの両方を念頭においた総合的な”水的设计”と書かれた文章に出会い、ここでもそのことの必要性を教えられた思いでした。

外国のものまねでなく、地域に、その土地にあわせ、総合的に考えての”まちづくり”が今求められているのではないかとの話でした。「市民が行政への批判精神を持つことが、行政を動かし、また水準を上げていくことになる。」と。そのことができるためには、毎日の生活の中でしっかり見るべきものを見、考え、学習（勉強？）していかなければならないことを実感させられました。

その後の”水と共に生きる”と題されたディスカッションにおいて、心に残ったことは、十年前の観音水・新町川はゴミも多く、洗剤の中をコイが泳いでいた状態。その当時から市民の一部の人々の中に心配の声があった。

昭和60年に「名水百選」の指定を受け、町に清流をよみがえらせることができた。その最大の要因は、下水道の整備が大きいこと。これから先残されている課題もあることを思いながら”一度汚した水路”を住民と行政の努力によりよみがえらせることができたことを知るよい機会になりました。(H・M)

水の7割（うちぬき）
3割（簡易水道）
会場で出たコーヒー
のおいしかったこと



「水の都」西条を訪ねて

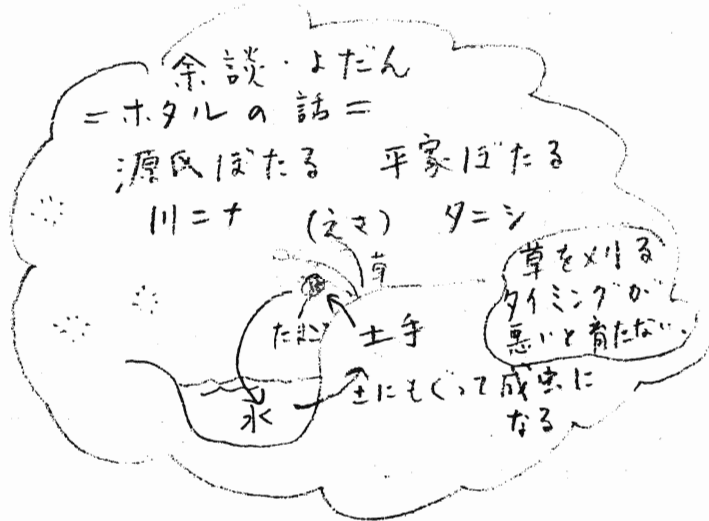
11月8日、西条の「うちぬき」を見るために会員4名で出かけました。あいにくの小雨模様の天気でしたが、敢行しました。西条駅では、西条くらしの会の有重さんが出迎えて下さいました。

「水の都 西条」というキャッチフレーズをよく耳にしますが、石鎚山を背後にひかえ、加茂川の流れのほとりに広がる西条市、水がきれいでおいしい、それで「水の都」と言われているのだと単純に思っていました。有重さんのお話から、水の使用量の90%以上が地下水であること、さらに西条の人たちの大部分が何の処理もほどこさない水をただで飲んでいることを知り、まさに水の都であると再認識した訳です。西条市が、行政自ら「水」を全面に出して、決して無限ではないこの資源を守ろうと立ち上がったということは当然だと思いました。

うちぬき—これは、鉄パイプの先端を加工し、根元に孔をあけたもので大地を打ちぬき、地下水層に達する(地下1.3m~2.0m)とひとりでに湧き出してくる自噴井のことを言うのですが、有重さんの案内で、たくさんあるうちぬきの一つ、観音水系のものをを見せて頂きました。まるで噴水のように湧き上がっているうちぬきを見たときは、思わず歓声が上がりました。すごい!豊かな水量がなければ、こんなことは到底起こり得ない現象でしょう。

観音水系の流れは、西条のアquatピア事業により西条のシンボルとして現在整備されており、そこを流れる水はとてもきれいなものになっていますが、以前は、生活排水が入り込んで汚れていたそうです。そこで西条市は、下水道を完備して排水路と分けたので、現在のように美しさがまた戻ったということです。

観音水の流れを、きれいに整備されたすぐ脇の道を通り下って行きました。「蛍の里」あり、休憩所ありで、まるで市街地であることを忘れてしまいます。蛍の里では、毎年、蛍を放流するそうです。流れも緩慢で、適当に植物も生えてはいましたが、蛍が住み着くには距離も余りに短く無理でしょうとお話でした。



工場地帯に出ました。伊予製紙です。散歩道はそこで寸断されており、gateがあります。押しボタンを押すと、「ドアが開きます。」の声と共に、gateが開き、今度は、工場と工場をつないでいる道路が寸断され、歩行者が渡れる仕組みになっていました。何とも不思議な気分させられました。有重さんの話では、市は伊予製紙と、もう少し下流に位置する関西捺染に移転するように申し入れてはいるが、昔からここに位置して西条の経済の一端を支えてきたこの二社に余り強くは言えないとのこと。会社にしていても、水が豊富であるこの地は捨てがたく、なかなか話がまとまらないとのことでした。今は、下水を分けたので、ある程度は解消されたものの、地下水に対する影響もあるので、移転交渉は尚継続中とのことでした。自噴水は、川になり、川は海に流れる。海に出る直前に工場排水の入り込む口があり、そこからは染料の色の混じった排水が流れ込み、糊などの富栄養故か藻が繁殖していました。

散歩道を下って行って思ったことがいくつかありました。市の整備方法の中で、いままで汚かったところをきちっと整備する、これはある程度は必要だとしても、例えば表面上きれいに見える花を植えることなどは、これによって今まで自生していた植物をなくしてしまいこれまでの生態系を壊すことにならないのか。護岸工事の方法はここに合った方法なのか。自噴水は別として、ポンプアップしてまで公園のための噴水を別に設ける必要があるのか。それによって無駄に水を流すことにならないか。親水とは誰のためのものか。そこに住む人たちの生活に密着したものでなければ意味がないのではないか。西条が、観光の目玉に水を持ってくるとするなら、それは本来の水にとって悪影響を及ぼしはしないか。

水は、限りある高価な資源です。一度汚染されたら取り返しのつかないことになります。住民と行政が手を携え努力してこの水を守って行って欲しいものです。そして、私たちは、自分の町で何ができるのかを西条の例から学び考えていこうと思います。(T)

水 を学べば、**川** にたどりつく。

川 を考えれば、**排水** にぶつかる。——

という訳で**排水** 処理方法の1つ**下水道** とは？

参考文献： 下水道—水再生の哲学
中西 準子 朝日新聞社

コメント：少し古いがとてもいい本です。

下水道

現在、私達の排水は、ところにより処理のされ方が大きく異なっています。下水道が完備しているところでは、汚水は各家庭から処理されずにそのまま流され、最後に終末処理場で処理され、海や河川に流されます。重信町では下水道の計画はありますが残念ながらまだ整備されていません。下水道が整備されていないところでは、普通し尿についてはなんらかの処理をするのが義務付けられています。台所や洗濯、風呂からの家庭排水はそのまま水路や河川、海に流されています。

下水道の計画のないところ、あっても時間のかかるところでは、最近合併浄化槽に補助金がつき奨励されるようになりました（山ノ内地区）。これはし尿も台所などの排水も同時に処理するものです。他に農村地帯では集落ごとに排水処理が行われたり（上林、下林、上村地区で計画）、また団地などまとまった単位で排水処理するコミュニティプラントなどもできています。

下水道は経済的に安いものではありません。またその敷設に時間がかかるのも問題です。最近下水道一本槍の方針が見直されてきています。必ずしも下水道にこだわらず、その地域に合った方法でより早く、安く排水設備を整備してもらいたいものです。また重信町のほとんどでまだ下水処理がなされていない現在、どうしたら川を汚さないようにできるか、合成洗剤を使わない、油を流さないなど各自が気を付けることも大事な課題でしょう。 (M・M)



下水道の話

10月16日（土）、「水の会」の武井さんから”下水道”についての話を聞かせてもらいました。重信町に住む私にとって「下水道ってどんなもの？」という感覚でしたので、ただ聞き入るばかりでした。

生活排水が流れ込む用水路の汚れた様を目にする度「どうにかならないものなのか！」といつも感じていましたが、ある友人など、「どこかで処理している。」と思いついて驚いた事があります。

松山市垣生浄水場では、重信川の伏流水を取水し、松山市民の水道水として供給しています。

私達重信川上流に住む人々が出す生活排水はきれいにし、重信川に返す必要があるはず。住民一人一人にできる努力は実践し、行政も、早く下水道工事に踏み切ってもらいたいものです。 (A・M)



一口メモ

合成洗剤と石鹼の見分け方（表示で解らない場合）

水溶液に酢を入れて・・・

- ・ 泡が消えなければ 合成洗剤
- ・ 白濁して泡が消えたら 石鹼
- ・ 白濁して泡が消えなければ 複合石鹼

なよ。

今後の予定

- ・ 12月16日（木） 五十崎行き
「川を生かした町作り」 亀岡さん（シンポの会）の話
12:00 町民会館出発 - 希望者は丸井さんに申し込んで下さい
- ・ パネル展示 （6月頃）
- ・ 講演会 - 講師未定（パネル展示と同時開催の予定）
- ・ 重信町地元活動団体との交流 など

くらしの学習会も1月で満1年となります。その間色々と活動を重ねてきました。そこでこの1年の活動を振り返り、それをもとに来年の活動の計画を立てたいと思います。つきましては、一品持ち寄って食事をしながら会員相互の交流もはかりたいと思いますので、是非ご参会下さい。

記

日時： 1月21日（金）12:00～

場所： 町民会館3階 和室

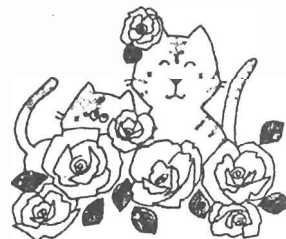
会員募集中！

くらしの学習会では一緒に活動する仲間を募集しています。会費は年2千円。いつでも入会できます。購読会員も同時募集中（年千円）。お問い合わせは「くらしの学習会」

重信町西岡599-68 丸井方

TEL: 64-0828

（または、林: 64-6956）まで



第4号をお届け致します。紙面の枚数も大幅に増えました。中身が濃くなっているかどうかは、ぜひ読んでお確かめください。（T）